企業名：国際紙パルプ商事株式会社

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

初めに経営理念から企業の目指す姿を分析する。

1.グローバル経営の充実と持続的な成長を目指す。

2.社員とその家族の幸福を追求すると共に株主・顧客・取引先・地域社会より信頼される企業を目指す。

3.循環型社会の実現と教育・文化・産業の進行に広く貢献する。

のうち最初の二点については、当たり障りがないというか企業として当然のことを主張しているようで目指すべきものではあるが書く必要があるか疑問に思った。しかしながらこうした姿を目指すと明文化して多くのステークホルダーに示すことが大切なので一概には言い切れない。

一方３つ目の循環型社会の実現という点について後述の総合循環ビジネスモデルにあるように紙パルプを扱う会社として現在使用されている紙類を社会でいかに循環させるか、また未使用の資源や廃材を利用したバイオマス発電の運用など森林から得る資源の有効活用といった事業展開の構想を見ると、森林資源を最大限に有効活用しようという将来的なビジョンがはっきりと見えているといえる。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

ハイブリッド型ビジネスモデルに示され散るように世界５大陸で各地域に合わせたビジネスを展開している経営戦略は評価できる。

一方で業界全体として社会全体が情報媒体としての紙に頼る場面が電子媒体に置き換えられるケースが増えており、使い捨ての包装やペーパータオル類についてもコロナ禍での一時的な需要増加という見方もあり紙そのものの需要が今後どのように変化するのかが読めない一面がありその点においての優位性に疑問が生じた。今後は紙やパルプを扱うというビジネスそのものが必要とされるどころか過去の形態のままでは存在が許されなくなっているのも事実だと考える。

一方で森林環境の保護や管理と言った観点でこうした企業の存在が必要であるとも言える。こうした企業が積極的に森林環境の持続的な開発に取り組むことによる環境保護に与える影響は大きいと考えられ、社会的に大きな存在意義を示せると考えられる。また紙類の需要に関しても海洋プラスチックの問題からプラスチック製品が紙製品に置き換わることが増えており需要の増加も世界的に見込めることから世界で各地域に合わせたビジネスを展開している本企業の優位性は高いものと考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

優位性の持続性については森林保護の観点からは適正な森林管理の認証の運営や環境保護活動の展開から同業他社に比べても引けを取らないと考える。そして今後この業界は収益性だけでなく社会貢献・環境保護の観点が大きく企業の価値に大きく影響を与えることが予想でき世界的に環境保護活動に力を入れている本社の企業価値の持続性は高いと考える。

また環境関連特にバイオマス発電関連の事業は発展途上なので発展の余地は大きく持続的な成長性が高いと考えられる。しかしながらバイオマス関連の事業に関しては他社との競合もあるので将来にわたって安定した価値を生み出せる事業に成長するかどうかは不透明なところがある。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

本企業内で自己の成長につながると考えられる要素は以下の 3 つと考える。

・SDGs の中での環境保護に関する知見を深められる。

・多様な形態のビジネスに触れることができる。

・ダイバーシティ推進とグローバルな展開から多様な人々とのビジネス推進の実践が可能

持続的に森林資源を活用することを掲げている本社では環境保護に関して営利的な側面からのノウハウを吸収できると考える

積極的に海外の企業を買収し現地に合わせたビジネスを展開している本社では多様な形態のビジネス（E コマースやソリューション事業など）に触れかつ世界のあらゆる人との関係性が重要となってくる。この環境下で仕事に取り組むことは多様な仕事の形態や人間関係に対する対応力を向上させることにつながると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書の各項目に何についての説明なのか分かりやすい見出しがあった方がさらに読みやすくなると考える。どんなことを伝えたいのか目次だけでなく細かい文字を減らして簡潔な説明を増やした方が、真意が伝わりやすいと思う。

そして二点目に最初のページにある本企業がどんな姿を目指すのかの説明の分量をもっと増やしてから具体的な戦略の説明に入ってもいいと感じた。